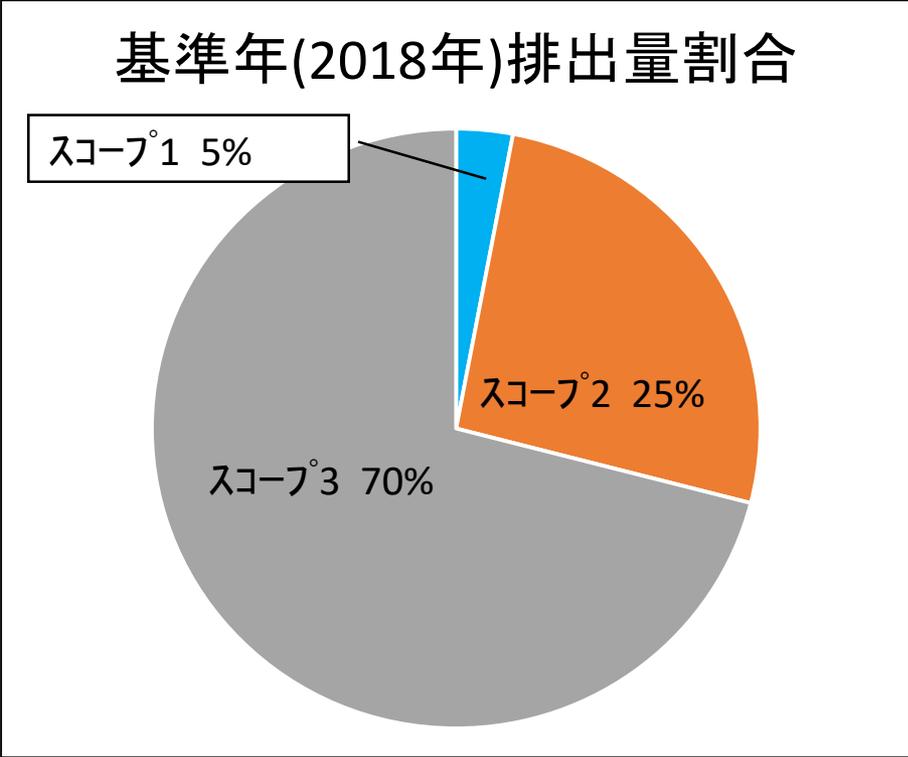


三甲株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：製造業● 事業概要：産業資材・物流資材に特化したプラスチック物流機器の専門メーカー● 事業規模：グループ全体売上1,722億円 全国26工場、9支店 ※68期実績。2019年5月31日時点
2.削減目標	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <ol style="list-style-type: none">1. 削減目標(2030年)：50.4% (2018年比) を検討中2. 取り組み<ol style="list-style-type: none">①省エネ生産設備導入②再生可能エネルギー電力への転換 <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <ol style="list-style-type: none">1. 削減目標(2030年)：15%(2018年比)を検討中2. 取り組み<ol style="list-style-type: none">①リサイクル材活用製品の拡大②独自のCAE技術、精密成形加工技術による軽量化製品の拡大

三甲株式会社

項目	内容									
3.基準年のGHGインベントリ	● Scope 1・2・3の排出量の状況	● SCOPE1 : 5%								
	<p data-bbox="581 448 1263 508">基準年(2018年)排出量割合</p>  <table border="1" data-bbox="471 419 1379 1176"><caption>基準年(2018年)排出量割合</caption><thead><tr><th>Scope</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>Scope 1</td><td>5%</td></tr><tr><td>Scope 2</td><td>25%</td></tr><tr><td>Scope 3</td><td>70%</td></tr></tbody></table>	Scope	割合	Scope 1	5%	Scope 2	25%	Scope 3	70%	● SCOPE2 : 25%
		Scope	割合							
Scope 1	5%									
Scope 2	25%									
Scope 3	70%									
● SCOPE3 : 70% 目標の対象セクター : カテゴリ1										

項目	内容
<p>4.気候変動によるリスクと機会の分析</p>	<p><リスク></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存低炭素技術の陳腐化による低炭素製品競争力の低下 ● 輸送効率を高め且つ現行物流資材（木材、ダンボール）より長期耐久性に優れる低炭素プラスチック資材の物流市場への投入遅延 ● 海洋汚染問題に伴う廃プラ輸出禁止への対応として、新環境技術（リサイクル、軽量化）の確立遅延 <p><機会></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物流の高効率輸送と低炭素を実現する競争力優位の物流資材を、他社に先駆け開発し拡販を達成する ● 海洋汚染問題等環境課題を解決する新環境技術（リサイクル、軽量化）を確立する
<p>5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 背景 <ul style="list-style-type: none"> ● 海洋汚染問題や顧客の低炭素製品への環境ニーズの高まり ● 環境ニーズに応えるSBTを達成する 2. 目的 <ul style="list-style-type: none"> ● 自消燃料、購入電力の再生エネルギーへの転換 ● 新環境技術の確立 3. 期待する効果 <ul style="list-style-type: none"> ● 環境課題と顧客の環境エネルギー（低炭素、低コスト）の両立 <ol style="list-style-type: none"> ①低炭素製品の競争力向上 ②リサイクルモデルの再構築

三甲株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● SBTシナリオ策定委員会を結成し（2019.8）、SBT達成シナリオ案を策定(2019.12)● 同案策定にあたり、(株)ウェイトボックス様より3度のご指導を受ける。(第1回：9/26、第2回：10/28、第3回：11/25)● 同案の施策の実現性評価について社内議論中で、2020年6月に評価を終了予定
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● 再エネの増分コストの回収策の検討● リサイクル材活用製品の拡大策の検討● リサイクルモデルの再構築の検討